



5年生リモート工場見学

先週4日(金)に6時間目に、5年生はTOYOTA工場見学を行いました。これは、見学旅行に行かずとも、見学できるリモート見学でした。「Zoom」を利用してトヨタ自動車九州宮田工場の担当の方から、クルマづくりやLEXUSの魅力・取り組みについてバーチャル見学ができました。製造している車「レクサス」の種類の紹介や、製造過程の様子、協力会社との連携など、丁寧な説明によって、子供たちには新しい発見もあったようです。子供たちの感想には「工場では、いろいろな工夫があり、そしてほとんどミスしないということが初めてわかりました。教科書と工夫しているところが違って面白いなと思いました。」「重い物や大きい物はロボットと協力していて、みんなでアイデアを出し合って『カイゼン』をしながら働く場所がよりよくなるよう、みんな協力していてすごいなと思いました。」など、実りのあるバーチャル見学旅行になりました。



日本の誇り

新旧のお札が財布の中に混在するようになってきましたが、私は財布の中に新札が出回ったときに手に入った一枚の千円札を大切にしています。それは、この千円札には、私が好きな北斎の富嶽三十六景「神奈川冲浪裏(かながわおきなみうら)」が、描かれているからです。この浮世絵は、「グレート・ウェーブ」として世界的にも有名です。この版図が西洋に与えた衝撃は大きく、モネ、ドガ、セザンヌなどの印象派に大きな影響を及ぼしました。画家ゴッホは弟テオに与えた手紙の中で「日本の芸術は、中世、ギリシャ時代、我がオランダの巨匠レンブラント、ポッター、ハルス、フェルメール、ファン・オスターデ、ライスダールの芸術と同じようなものだ。いつまでも生き続ける。」激賞しています。さらに絵画の世界だけでなく、作曲家ドビッシューは交響曲「ラ・メール(海)」を北斎の神奈川冲浪裏からインスピレーションを受けて作曲したとも言われています。



因みに神奈川冲浪裏に使われている、鮮明な青は「北斎ブルー」とも言われていますが、これには誕生秘話があります。18世紀初頭、プロシアで「赤い染料を作れ」という王様の命が下り、偶然、青い化学染料ができたのです。錬金術としては失敗でしたが、価格は高く、絵には使われませんでした。その後、清(中国)で大量生産されるようになって、北斎の版図にも使い出されるようになると、「北斎ブルー」の美しい青色は当時の人々の心を魅了したそうです。

世界では「神奈川冲浪裏」は、ダ・ヴィンチの「モナリザ」に匹敵する知名度と言われます。私も、この千円札は日本人の誇りと思って大切にしたいと思っています。